

\*\*\* 記事 \*\*\*

例会記録

七月例会 休会

八月例会 休会

九月例会 (神奈川県地方会と合同) 平成十一年九月二十五日

横浜市健康福祉総合センター八階大会議室

一、梅毒の薰蒸療法について

中西 淳朗

一、佐藤方定の発見した『大同類聚方(延喜本 寮本)』

後藤 志朗

一、記憶のメカニズムの歴史的考察

鈴木 衛

一、ペスト残影シリーズ(上)

ケルンに『ペスト残影を求めて、その二』

滝上 正

一、女性の病の社会史

野末 悦子

十月例会 平成十一年十月二十三日

順天堂大学医学部九号館八番教室

一、検梅医・松山不苦庵の足跡

中西 淳朗

一、ドイツ自然研究者および医師協会の一七五五年(二)

―専門・分科化とアマルガメーションの二十世紀―

小原 正明

十一月例会 休会

十二月例会 (日本薬史学会・日本獣医史学会と合同) 平成十

一年十二月十八日

順天堂大学医学部九号館三番教室

一、W.ハーヴィイのアナトミアと方法

月澤美代子

一、動物の死と記念物

勝山 脩

一、日本の犬塚―動物愛護史の視点から

小佐々 学

一、横須賀製鉄所医師P. A. L. サヴァアチェをめぐる

竹中 祐典

例会抄録

黒船来航と蘭医たち

望月 洋子

仙台藩の蘭医工藤平助が「赤蝦夷風説考」を著して、老中田沼意次に建白を行い(一七八三)、この献策が容れられ、普請役らがエトロフへ派遣された(「蝦夷地一件」)。異例ともいえる献策採用から対ロシア政策に難渋している施政者の困惑ぶりがかがえる。

海外通の前野良沢・中川淳庵・桂川甫周・大槻玄沢らと親交のあった工藤は、カムチャツカ・エトロフの状況を述べ、